

(熊本県立天草高等) 学校 令和3年度(2021年度)学校評価表

1 学校教育目標
「県立高等学校における教育指導の重点」及び「人権教育取組の方向」等を基盤に据え、本校の三綱領「正大・剛健・寛厚」のもと、生きる力の育成を通して、求めて学び志を成す生徒の育成と活気溢れる学校づくりを目指し、次の5項目を目標とする。

2 本年度の重点目標
(1) 人権尊重の精神の涵養と基本的な生活習慣の確立に努め、豊かな人間性の育成を図る。 (2) 主体的に学習に取り組む態度を養い、一人ひとりの進路目標達成に応じた学力の向上を図る。 (3) 体力の向上、心身の健康の保持増進及び安全教育の充実を図る。 (4) 地域の進学拠点校として、地域、保護者、生徒の信頼と期待に応え、入学者の増を図る。 (5) 学校における働き方改革を推進する。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学 校 経 営	開かれた学校づくり	公開授業の推進	・保護者や地域の方々の本校教育活動への理解と関心の向上	・公開授業週間および「教育の日」などを活用して、年間2回以上の公開授業等を実施する。 ・近隣の小・中学校、県内の高校にも案内し、連携を深める。	B	【○】7月に1週間、11月に2週間の公開授業を実施した。 近隣の小・中学校、県内の高校に案内を配布し、感染症対策としてHPへの登録制とした。(申し込み者数) 7月：他校教員6名、保護者32名 11月：保護者11名 また、中学校職員向けの説明会を10月に実施し、授業を公開した。
		広報活動の充実	・効果的な広報活動による入学志願者の増加	・HPの更新頻度を高めるために、イベントごとに担当者が記事を作成する。 ・天高地域新聞を作成し、地域・中学校に配布する。 ・体験入学及び学校紹介の充実。 ・情報広報部と生徒有志で学校紹介ムービーを制作する。 ・アンケートを実施して、広報活動に反映させる。		【○】年度当初にHP更新方法の周知を図り、更新頻度を向上させた。 アクセス数：日平均1,571件 最高値9,293件(11月17日) 【○】年間3回(8月、10月、2月)、地域新聞を発行し、天草管内の中学校20校と近隣の家庭約600軒、天草市民センター、図書館等に配布した。 【○】今年度生徒・保護者を含め300人以上の参加希望があった体験入学は、コロナ感染拡大のため実施できなかった。代替としてWebオープンキャンパスを開発し、天草管内の中学生全員に対してそのサイトのQRコードがついたカードを配布した。 アクセス数：月平均約250件 中学校での高校説明会で、天草地区20の中学校、合計1,500人の生徒に本校のPRを行った。 【○】生徒による学校紹介動画制作委員会を立ち上げ、天草ケーブルテレビと共同で、学校紹介動画を制作した。この動画は、中学校での学校説明会や、Webオープンキャンパス等の広報活動で使用した。 【△】通信の発行はできていない。代替として、HPにて毎週のAS(天草サイエンス)の様子を発信した。 【○】ASⅢ発表会(全校生徒参加)、中間発表会(1学年及び2年ASクラス生徒参加)を実施できた。
	育友会との連携	育友会総会や地区別懇談会、学級懇談会の充実	・育友会総会や地区別懇談会、学級懇談会の充実	・総務部及び各学年の協力のもと、育友会が主体的に取り組む。	B	【○】育友会総会が中止となりインターネット回答となった。しかし育友会役員、会員の協力で各種委員会の実施・決定や毎月の役員会を実施することができた。
		学校行事、諸行事への保護者の積極的な参加	・学校行事、諸行事への保護者の積極的な参加	・メール配信サービスの利用と学校ホームページを活用し、積極的に学校行事への参加を促す。		【○】メール配信を利用しての呼びかけはできた。行事の実施が少なかったが各役員会での呼びかけで多くの方々へ連絡を取ることができた。
特色ある学校づくり	SSHの推進と地域課題解決に貢献する科学技術人材の育成	・地域課題解決に必要な多様な能力の全校レベルでの育成 ・主体的な生徒の研究活動の推進	・職員研修を年間で3回以上実施し、全職員でSSH事業を共通理解する。 ・AS評価基準表による評価を年2回実施し、指導の検証及び改善を行う。 ・ASは総括的評価(全生徒の平均値2.8/4以上)を設定し、達成のための支援を行う。 ・AS担当職員は、「指導」でなく	A	【○】まん延防止の観点から研修を2回に減らしたが探究型授業について教員の共通理解を図ることができた。 【○】ASⅠ～Ⅲの全てで実施し、指導に生かすことができた。 【△】中間段階での全生徒の平均値が2.8	

				「支援」に徹することを意識する。 ・毎回のASの冒頭に生徒と担当者とのディスカッションを設定し、主体的な研究活動を促す。	を下回っていたため、支援を続けている。 【○】授業冒頭のディスカッションの中での「問いかけ」を通じて、指導ではなく支援ができています。
	安全管理の取組	不祥事防止	・不祥事防止に向けて全職員で主体的に取り組む雰囲気醸成	・職員研修を定期的実施する。 ・職員朝会等を通じて適時、不祥事防止・リスク管理についての啓発を行う。	C 【△】情報漏洩をはじめ体罰や飲酒運転などの不祥事防止について、職員研修と職員朝礼で意識喚起を行った。しかし、書類作成に係る処理で課題が残った。
	業務改善及び働き方改革	業務の精選と効率化	・超過勤務時間の短縮と年休等の取得率の向上	・行事の精選と業務の削減、負担の平準化、計画的な業務遂行により効率化を進める。 ・部活動での休養日及び活動時間等の徹底を図る。顧問が複数配置の場合、指導時間を分担する。	B 【○】1、2年生の朝自学廃止や業務のスリム化、効率化などを進めた結果、超過勤務時間が平均61時間と昨年よりも減少した。更なる超過勤務時間の削減が必要。 【△】部活動での休息日の確保や活動時間の徹底ができた。顧問の指導時間の削減はできなかった。
学 力 向 上	学力の充実	家庭学習習慣の確立	・振り返りによる自己管理意識の醸成 ・6割以上の生徒の目標学習時間の達成	・手帳（Foresight）を利用して、宅習・生活の計画と記録を記入させ、振り返ることで自己管理を促す。 ・個別面談により学習意識の向上を図る。 ・年間2回の宅習時間調査を行い、学年ごとに対策を講じる。	B 【○】手帳の利用については、初期指導及び継続的な利用を促す働きかけを行うことで、3年時には先を見通して計画的にスケジュール管理ができる生徒が一定数出てきた。 【○】6月と10月に家庭学習時間調査を実施した。全学年ともR1→R2→R3と学習時間は増加し、57%の生徒が目標時間を達成した。
		3年間を見通した指導計画	・シラバスによる見通しを立てた指導 ・学年会等による職員の情報の共有と連携 ・定期考査の個人成績推移表の作成	・年度当初に各教科でシラバスを作成して、1年または3年間の授業計画を全職員で確認する。 ・学年会等で生徒についての情報交換を活発に行い、他の授業での様子も把握する。 ・定期考査の個人成績の変化を見ることが出来る表を作成し、指導と改善につなげる。	B 【○】年度当初にシラバスを配付し、各科目の1年間の計画と評価の方法について周知した。また、教育的支援を必要とする生徒について共通理解を図る会議を開いた。 【○】定期考査ごとに個人成績推移表の作成し配付した。
	習熟度別学習の実施	・それぞれの学習到達度に応じた指導	・国語、数学、英語で学習到達度に 応じた展開授業を行い、定期的に 到達度を確認し、適宜クラス替え を行う。	A 【○】習熟度別に授業を展開している教科 では、定期考査・模試等の結果を受け、 定期的にクラスを再編成しており、指導 の効果が上がった。 【○】1学期に、1年生の一部生徒を対象 に中学校の学習内容の学び直しの補講 を行った。（講師は退職校長会から推薦 を受け選出した。）	
	教員の指導力の向上	学習指導法の工夫・改善	・授業力の向上 ・教材研究の質の向上 ・作問力の向上 ・大学入試問題の分析力と模試結果分析力の向上 ・ICT活用スキルの向上 ・授業評価による振り返り	・各教科で短期・中期・長期的なテーマを掲げ、年間2回以上の研究授業を行う。 ・定期的に教科会で検討し、互いに指導力向上を図る。 ・校外での作問研修会への参加や先進校視察、予備校研修を実施する。 ・大学入学共通テストの分析をもとに、各教科での思考力問題への対策を強化する。 ・九州大学、熊本大学、熊本県立大などの入試問題分析を各教科で実施し、生徒へフィードバックする。 ・模試分析を1・2年生は7・11・1月進研模試、3年生は4・6・7・9月進研模試・ベネッセ駿台模試について教科会で実施し、生徒の学力の状況と改善策の検討を行う。 ・ICTを活用した深い学びに関する職員研修を実施する。 ・授業改革プロジェクトリーダーを中心に、一人一台端末を用いた授業や探究をテーマとした授業形態の提案を行い、全職員が実践する。 ・1・2学期末に授業に関する調査を行い、授業改善に役立てる。	B 【○】各教科会の中で、定期的に授業の質の向上のための協議や考査問題検討、および今後の指導方針や新しい学習評価等についての意見交換を行った。 【△】先進校視察については、実施計画までは行ったが、コロナ感染拡大の影響で実施できなかった。 【○】模試、大学入学共通テスト、大学個別試験を授業担当者が分析し、教科会で分析会を実施。生徒の状況を共有するとともに、3年間を見通した指導についての共通理解を図ることができた。 【○】7月は一人一台端末の活用法、10月はその実践例と天高版探究型授業に関する職員研修を行い、その後実施した公開授業週間で公開した。 研究授業回数：国2、数1、英2、理2、地歴公民1、その他1 【○】1学期末および2学期末に全生徒を対象に授業評価アンケートを実施した。生徒の評価も参考にして授業の改善に取り組んだ。
キ ャ	3か年の一貫した指導のもとでの進路目標の達成	第一志望現役合格の達成	・国公立大学進学希望生徒数の1/3以上（難関大学5名以上）合格の達成	・難関プランに沿って、授業の学び直しや自らの進路目標や学習の状況に応じてスタディサプリや課外授業、添削等を利用し、主体的、計画的に受験基礎力を養成する。 ・小論文対策の系統的な指導体制を整える。 ・総合型・学校推薦型入試対策として、生徒の特技・特徴の強化を図る。	B 【○】難関プランの具体化を図り、学年で共有することで、より効果的な活動につなげた。スタディサプリの導入に伴い、授業の学びなおしや、振り返り、苦手克服が生徒主体でできるような取組の推進を行った。生徒の利用状況と生徒の学力等の相関についても観察を行うことで、生徒の苦手についての取組へのアドバイスができた。 【○】小論文対策については、国語科の協力で教科内での文書作成能力の育成について取り組んだ。模試や講演会について

リア教育・進路指導	総合的な探究の時間の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストでの全科目全国平均点以上の達成 ・模擬試験での3年生全科目平均偏差値50以上、1、2年生国語・数学・英語平均偏差値52以上(50以上を6割)の達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・模試等の結果を分析し、担任・教科の生徒の状況について共通理解を図り、二者面談や教科面談を行う。 ・進路検討会を年間に3年生5回、2年生2回、1年生1回以上行う。 	<p>ても適宜行った。 【△】大学入学共通テストで3科目が全国平均点以上を達成した。</p> <p>【○】模試分析を教科で行い、それらの情報をもとに各学年での学力検討会及び進路検討会を行った。生徒の現状を学年と教科担当者で共有し、個別の面談に利用した。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な問いの目と論理的思考力の育成 ・情報を収集・分析する力と表現力、自己実現に向かう力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の将来と関連させながら、天草市が達成を目指すSDGs(持続可能な達成目標)への貢献のための探究活動(課題の設定・調査・表現活動・地域への提言)を実施する。 ・進路別探究学習を通じて、自己と社会の関わりを見出しながら、社会の諸問題に関する新聞記事に対する自分自身の考えを、学術論文等で得た情報を根拠に文章で表現させる。また、進路別に編成した班で発表し、意見を共有させる。 	<p>A</p> <p>【○】2学年のルーブリックによる自己評価(4段階)結果から、探究活動をとおして問いを立てる力(平均3.65)、情報を収集する力(3.20)を育成することができた。</p> <p>【○】3学年の自己評価(4段階)において、進路意識に関する項目が平均3.29と高く、自己の在り方生き方について考えを深めることができた。</p> <p>【△】ルーブリックを活用した探究スキルテストを実施するなど評価の工夫が必要であった。</p>	
	多様化する生徒の個々の進路目標への対応	進路意識の高揚・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・「雛鷲プラン」の進路指導スケジュールに基づく系統的指導 ・各学年、学年通信や進路通信などの年間20回程度の進路情報の提供 ・各学年の進路講演会、大学出張講義などのガイダンス機能の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年での「雛鷲プランカレンダー」を作成し、具体的な行事や取組を提示し、見通しをもって進路指導を行う。 ・進路の手引き『求學志成』と「進路ニュース」を作成する。 ・適切な進路選択ができるよう、生徒だけではなく保護者にも情報を提供する。 ・学年ごとに時期、段階とニーズにあった内容で講演会を実施する。 ・受験形態を継続的に研究し、個々の生徒の実情に合わせた進路指導を実施する。 	<p>B</p> <p>【○】各学年で「雛鷲プランカレンダー」を作成し、年度当初に全生徒に配付した。</p> <p>【○】進路の手引き「求學志成」を全生徒に配付し、進路学習等で利用。進路ニュース「求學志成」では、時期に応じた内容を各学年向けに提供した。</p> <p>【○】各学年の進路講演会で、進路指導部から学年の現状や今後の指導についての情報提供を行った。欠席者へはインターネット配信を行った。</p> <p>【△】個別の指導については、個々の教員の協力で進んでいるため、教員の研修についても必要と考える。</p>
	進路希望に応じた個人指導	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の進路指導力の向上 ・個別指導体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の目標や特性を把握して、進路選択の幅を広げていく。 ・Benesse highschool Onlineやkei-net等の全教員の登録を促し、教員が大学や入試変更点などの情報を主体的に取り入れる状況を作るとともに、学年、各教科等へ積極的に提供する。 ・スタディサプリを活用し、生徒が学力や目標に応じた受験対策を主体的に行うための体制を整備する。 	<p>A</p> <p>【○】生徒の学力の幅の広がりとともに、生徒の進路希望も多様化しているため、それらに対応するための検討を継続的に行った。</p> <p>【○】Benesse highschool Onlineやkei-net等にほぼ全ての教員が登録し大学と入試に関する情報収集に努めた。また、生徒自身が情報収集できるようにサポートを行った。</p> <p>【○】スタディサプリを利用し、生徒自身が学力や志望に応じた学習の振り返りを行えるよう、利用に関しての研修を行った。その後の運用についても継続的に行った。</p>	
高大接続改革への対応	入試制度改革への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型、学校推薦型選抜入試での合格者の増加 ・調査書の生徒の主体性の評価欄の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型、学校推薦型選抜の検証を行い、本校生徒の活動や能力を活かす受験への対策を行う。 ・受験レポートや過去問等の情報をもとに、受験指導の対策を全教員が行える体制を整備する。 ・進学用調査書の改訂(「指導上参考となる諸事項」で、生徒の活動の意欲や実績を細かく評価)を受け、全職員が系統だった進路指導が行えるように、本校の「進路指導の手引き」を改訂する。 	<p>B</p> <p>【○】総合型選抜や学校推薦型選抜の定員増加に伴い、生徒の主体的な活動を評価する項目が増加したが、コロナ禍で活動が制限されたため、リモート講演会やWEB研修等への参加を促し、生徒自身の視野の拡大を図った。</p> <p>【○】受験レポートのWEB登録への変更を行い、全教員が志望理由書、受験レポートの閲覧を可能とした。</p> <p>【○】教員版「進路指導の手引き」の改訂、および1・2年生教員用の「調査書作成の手引き」を作成した。</p>	
生徒	自律心の育成	生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らの学校生活の改善の提案 ・コロナ禍における学校行事の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回以上の一斉委員会を開催し、学校生活における改善点を自分達で洗い出し変えるべき点は変えるべきとして提案する。 ・毎月の生徒朝会の実施。 ・一斉委員会の内容を、生徒朝礼で取り上げ、全校生徒への委員会活動の周知を図る。 	<p>A</p> <p>【○】一斉委員会を2回開催した。生徒議会を開催し、校則、部活動等の見直しを教員に提案した。</p> <p>【○】生徒会が中心となって、毎月生徒朝礼を実施し、校則の見直しなど生徒自治に基づいた主体的な活動を行った。</p>
	部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の効率化と部活動成績の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部活動で活動内容を精査し、効果的な練習に取り組む。 ・各部の目標や活動状況を踏まえ、部活動顧問の指導・助言を受けながら活動計画や練習内容を練り 	<p>B</p> <p>【○】部活動の活性化を目指し、各部で効果的な練習について話し合いを持ち活動計画や練習内容を練り上げることができた。</p>	

指導		ボランティア精神の育成	・ボランティア活動の活性化	上げる。 ・外部から依頼されたボランティアに限らず、ボランティア委員会で奉仕活動を企画し、積極的に呼び掛ける。	B	【○】コロナ禍において出来る限りのボランティア（郊外での活動：6回）に取り組んだ。	
	基本的な生活習慣の確立	交通モラルとマナーの向上	・交通違反・事故0の達成	・学期毎に生徒指導部を中心に登校指導を行う。 ・生徒の通学状況に応じて街頭指導を行う。 ・毎月、原付免許取得者集会を実施して、具体的な事故・違反事例を取り上げて、交通規範の高揚に努める。	C	【○】学期の節目で年間6回の街頭交通指導を行った。 【×】自転車事故11件、原付事故7件が発生した。その中には、重大事故につながりかねないものもあり、より徹底した指導の重要性を感じた。	
		規範意識の高揚	・服装頭髪検査不合格者50%削減	・年5回以上の整容指導を実施するとともに、授業、掃除といった日常生活での場面を指導の場と捉え、全教員でルール遵守の意義を生徒に伝える。 ・生徒朝礼をととして生徒会、生活委員会を中心とした規範意識向上の呼び掛けを行う。	B	【○】年間5回以上の整容指導は実施できた。しかし、実施にあたって社会の変容に応じた指導の在り方を感じた。 【△】校則が昨年度と変わり、制服の着こなし等、新たに指導していくための教員の共通認識を図る機会が設けられなかった。	
人権教育の推進	命を大切にすることを育む指導	校内の人権教育の推進	・生徒・職員の人権意識の高揚と人権感覚の醸成	・人権講演会や人権LHRを計画的に実施する。 ・校外研修会への教員の積極的な参加を促す。	B	【○】人権LHRは計画通りに実施できた。講演会は高濱伸一氏の講演をいのちを大切にすることを併せて実施した。 【○】校外研修等を広く紹介し、参加を求めた。オンライン研修を含めて例年通りの参加をした。	
		命を大切にすることを育む	・全教職員によるすべての教育場面での命の教育の実践	・「いのちを大切にすることを」について考えさせる集会やLHRを企画実施する。 ・すべての教育活動を通じて「命の大切さ」への理解を深め、相手を思いやる心と自己肯定感を育む。	B	【○】交通事故被害者の家族の方に体験を語っていただいた。生徒も職員も感銘を受け、命の大切さを痛感した。 【○】新型コロナウイルス感染症に関わることであり、集会のたびに各部署からいろいろな角度で話をする事ができた。	
		教育相談の充実	・配慮を要する生徒の把握と支援の充実	・学期に1回の生徒理解研修、生徒支援委員会を実施する。 ・スクールカウンセラーを活用し、現状を分析して担任に指導助言を行う。	A	【○】学期当初に計3回の生徒理解研修を実施した。生徒状況の共通理解を図ることができた。 【○】カウンセリングの回数も十分に確保され、生徒の不安感を軽減できた。ただ、年々カウンセリングを希望する生徒が増加しており、相談回数を増やすことも必要かと思われる。	
		豊かな人間性の育成	読書の推進	・貸出数の1人当たり12冊以上の達成 ・「朝の読書」の徹底	・知的好奇心や情操に訴える資料の選定を行い、「図書館だより」の年10回発行や毎月HP更新を利用した広報活動を行う。 ・蔵書検索サイトの活用を促進し、教科と連携し活用する場面を多く設定する。 ・「朝の読書」は全生徒で一斉に行う。 ・公共図書館も積極的に利用し、将来的な読書習慣を育成する。	B	【○】「図書館だより」の年10回発行や毎月HPへの掲載は計画通りに実施できた。 【△】一人一台端末の導入に伴い、調べ学習関連の資料利用・調査相談が減少している。 【○】朝の読書は学年でも熱心に取り組まれ、教員評価における徹底率が94.2%と評価された。
		人生観・職業観の育成	・人生観・職業観を養う講演会の実施	・HRでの活動を通じ、日常の指導の中で生き方や在り方について考える機会を増やす。 ・学問観や職業観に関する外部講師による講演会を実施し、生徒の意識の向上を図る。	B	【○】毎日のSHRで、生徒の気になる行動に対する注意喚起を学年で統一して行った。 【○】学年ごとに育友会主催の進路講演会を実施した。	
		道徳教育の推進	・すべての教育活動における道徳教育の推進	・「人間としての在り方生き方」に関する講演会を開催する。 ・情報モラル教育を行い、SNS等への書き込みにおけるモラルの向上を図る。	B	【○】人権LHRや人権教育講演会を通じて、他者を思いやり、自分の生き方を振り返るきっかけとすることができた。 【○】1学期に熊本県警によるSNS上のトラブルや犯罪についての講演会を実施した。	
健康安全教育の推進	健康・安全教育の推進と環境整備の推進	健康教育の充実	・治療勧告生徒の受診率の向上 ・生徒の健康状態に応じた個別指導の充実	・長期休業前や定期考査前を目処に治療勧告書を渡し、治療の必要性について呼びかける。メール配信を利用する。 ・健康観察を徹底させ、健康状態を把握した上で個別の保健指導につなげる。	B	【○】長期休暇前に治療勧告書を2回発行した。未治療の生徒には3学期はじめに再発行することで治療率も増加したので、3月にも再度発行する予定である。 【○】健康観察及び担任からの情報共有により生徒の様子を知ることができた。併せて新型コロナウイルス感染防止対策としての体温記録等も実施し、感染症の対応や保健指導につなげることができた。	
		環境美化の徹底	・時間一杯の清掃活動 ・ごみの分別を習慣化する。 ・学校版環境ISO活動に取り組む	・担当職員が率先垂範して指導を行う。 ・学期に1回、校内美化コンクールを実施し、掃除の仕方を振り返る機会を設ける。 ・分別のスリム化や分別しやすい表示等の工夫により、分別の習慣化を図る。 ・保健部会、生徒会生活委員会を中心に全職員・生徒で取り組む。	B	【○】各学期に1回ずつ美化コンクールを行い、細かな点検項目に従って採点をしたことで、日頃の掃除の際にも、どこに注意して掃除を行えばよいか、具体的な活動を学ばせることができた。 【○】新型コロナウイルス感染防止対策のため、使用後マスクの持ち帰りなどゴミの分別に関しては徹底できた。 【○】管理棟のエアコンを省エネ型に入れ替えたこともあり、エアコンの電力使用	

		整備の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 職員・生徒の安全意識の向上と、校内における事故のリスクの軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 毎学期の安全点検を活用し危険箇所の改善を迅速に行う。 掃除用具の点検を定期的に行い迅速に改善する。 	B	<p>量は例年より減少した。</p> <p>【△】各学期の安全点検は実施できたが、学期の終わりの実施となってしまった。学期が始まる前の実施で危険箇所の確認・改善を行うべきであった。</p>
いじめの防止等	指導体制の組織的整備	組織の実効的活用	<ul style="list-style-type: none"> 縦（管理職、他学年）と横（学年団）のつながりを密接にした組織づくり 専門的な知識を有する臨床心理士を含む「いじめ対策拡大委員会」の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有と、迅速な対応を心がけて行動する。また、保護者とも連絡をとり対応の説明を行う。 生徒指導部会やアンケートで得られた情報を共有し、該当生徒への事実確認や保護者との連携、対応方針の決定を組織的に行う。 	A	【○】学年会、部会等で情報を共有し、いじめの未然防止と早期発見ができた。また、発生したいじめ事案については、共有した情報をもとに「いじめ対策拡大委員会」を中心として組織的に丁寧な対応ができた。
	未然防止及び早期発見のための取り組みの強化	いじめの防止	<ul style="list-style-type: none"> 互いのよさや個性が大切にされ一人ひとりが尊重される人間関係や学校風土の構築 いじめにつながりそうな雰囲気や敏感に感じ取る感性の涵養 SNS等へのいじめに関する書き込みの根絶 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会から「心のきずなを深める月間」において、いじめ防止の意識を高める呼び掛けを行う。また、他者に対してSOSを発信することの大切さを併せて伝える。 クラスや学年で、雰囲気づくりに関する生徒への声掛けを行う。教室に標語などの掲示を行う。 ネットトラブルの現状を学び、SNSの適切な使い方等を考える講演会を、1学期中に実施する。 	B	<p>【○】「心のきずなを深める月間」において、全生徒がこころのきずなをテーマに標語を考えるなど、いじめ防止の意識を高めることができた。</p> <p>【○】各クラスでの呼びかけができ、生徒の意識が高まった。</p> <p>【△】SNSの適切な使い方等を考えるLHRを1学期中に実施することができたが、それでもSNSの不適切な使用方法によるトラブルが散見された。使い方に関して継続的な指導の必要性を痛感した。</p>
		いじめの早期発見	<ul style="list-style-type: none"> いじめ通報アプリ等の積極的周知 	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1度のアンケートや個人面談を行い、生徒の異変やサインを見逃さない。 いじめ通報アプリも活用して、いじめの早期発見に努める。 学年会などの情報を保健部会や生徒指導部会、運営委員会で共有する。 	B	<p>【○】学期に1度のアンケートや個人面談を行い、生徒の異変やサインに迅速に対応した。</p> <p>【○】いじめ通報アプリによっていじめの芽を摘むことができた。活用の仕方についてはいじめに対するSOS発信というより、生徒の悩み通報という側面での活用が多かった。</p>
		いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> 組織的に対応と早期の解決 	<ul style="list-style-type: none"> 「対応マニュアル」に則り、組織的に迅速な情報収集を行い事実の確認を行う。 被害生徒を守り、加害生徒にも適切に対応する。 	A	【○】いじめ通報アプリや生活アンケートから得た情報に対しては、学年・担任と連携し、組織的に迅速な情報収集を行い事実の確認を行った。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	防災型コミュニティ・スクール	地域連携の組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> 防災対策の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の合同会議を実施する。 地域や自治体とともに近隣の学校とも連携や情報共有を行う。 作成した対応マニュアルの改訂(チェック)を行い、より実効性の高いものにする。 	B	【○】年間2回の防災避難訓練を実施した。11月にリモート中継を活用しての郊外避難経路確認等を行った。学校運営協議会は書面での報告を2回実施した。また、今年度は危機管理マニュアル・土砂災害に関する避難確保計画を改定した。
	高校間の連携	地域への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 天草地域の高校生連携によるPR活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 地元商店街振興に向けて、各校がそれぞれの強みを活かした取組を企画・運営することで、各高校の強みを地域に対して情報発信する。 	B	【○】月1回実施される地元商店街のイベントに本校・天草工業・天草拓心高校が参加し、各校の教育活動の成果をPRした。

4 学校関係者評価

主な意見としては、

- アンケート結果から、生徒が教師を信頼している、安心・安全な場所、成長させてくれる場所として認識している。毎年改善されているのは評価される。
 - 入学させてよかったという点が増えているのはよかった。
 - 評価が高いことと意見が多く出ていることはよい。少数意見も大切に作る。
 - 保護者のアンケート回収率が低い。徹底できなかったのか。
 - 生徒指導で交通違反・事故0を目標にしていたが、自転車11件、原付7件と多かったのでは。交通事故の傾向として加害者側が自転車になるケースが多い。朝自学がなくなり余裕ができたためか2列以上で話しながら通学しているようすを見る。(不注意による事故に対して)体験的な部分の減少が事故の増加につながっているのではないか。
 - コロナ関係で活動が制限されていたが、商店街や小学校でのボランティアなどいろいろな活動をされている。ホームページの充実など広報活動も盛んである。地域への発信について努力が見られる。
 - スクール・ミッションは中学校の進路指導においてとてもよい。中学校の生徒に対して高校の中身が見えてくる。もっと表現やイメージ図を入れるとわかりやすくなる。
 - 中学校の協議会では高校生の挨拶がよいという評判を聞いた。
 - 8月の職業体験が中止となったが、6月や10月がコロナの周期としてもよい時期か。ボランティアでも参加してもらいたい。
- こうした意見を真摯に受け止め、今後も教育活動の充実に向けて取り組んでいきたい。

5 総合評価

(1) 全体について

自己評価においては、8個の大項目に対して35の具体的目標及び方策を設けて評価を行った。結果は、A評価が9個(25.7%)、B評価が24個(68.6%)、C評価が2個(5.7%)、D評価は0であった。昨年と比較すると、Aの割合は0.6ポイント減少し、Bの割合は0.2ポイント増加、Cの割合は0.4ポイント増加、Dの割合は同じ(0)であった。

(2) 本年度の重点目標について

○人権尊重の精神の涵養と基本的生活習慣の確立に努め、豊かな人間性の育成を図る。

基本的生活習慣や規範意識の確立に向けて、登校指導や整容指導、面談などに取り組んだ。体育大会や文化祭等の学校行事では、コロナ禍において感染拡大防止対策を踏まえたプログラム作成など、生徒が中心となって企画運営を行う中で、自主性や社会性の育成につながった。いじめ防止については、人権意識の高揚、情報モラル教育を推進しながら、継続的に取り組み、早期発見、早期対応をすることができた。

○主体的に学習に取り組む態度を養い、一人ひとりの進路目標達成に応じた学力の向上を図る。

教科指導に関して、ICT活用や探究型授業の職員研修や研究授業、公開授業での研鑽を行い、教員一人一人が指導力の向上に努めた。アンケート「授業はICTを活用するなど工夫されていて、学習意欲が沸いてくる」の項目では91%、「先生方は、適切な課題を与え学習習慣が身につくように指導している」の項目では92%の生徒が肯定的に捉えている。一方で、「家庭学習時間は週1200分を越えている」生徒は57%で昨年度(43%)よりは大きく上昇したものの、依然として低い状態である。今後、さらに重点化して取り組んでいく必要がある。

進路実現については、キャリア教育の充実を図り、一人一人の進路目標に応じた計画的で細やかな指導に努めた。また、大学入試制度の変更に伴う入試問題の出題傾向に応じた学習指導を行った結果、国公立大学を始め多くの進路実現を果たすことができた。また公務員志望者に対しても個別指導を行い成果を上げた。

○地域の進学拠点校として、地域、保護者、生徒の信頼と期待に応え、入学者の増を図る。

本校生の学力の伸びや進路実績、SSH研究指定事業の成果、学習支援ボランティア、地域イベントの企画運営等での地域連携や地域貢献の取組などの情報発信を行った。学校HP上でWebオープンキャンパスなど実施し閲覧数は飛躍的に増加したが、入学希望者は昨年並み(管内中学生数に占める割合は微増)にとどまった。

○学校における働き方改革を推進する。

朝自学の廃止、各部の業務の削減、効率化、ノー残業デーの実施などにより、超過勤務時間は減少した。(昨年度より減少した月:8ヶ月(72~93%))

6 次年度への課題・改善方策

(1) 学校経営

探究型授業、SSH活動や生徒の主体的取組を充実させるなど学校の特色化を図り、情報広報部を設置し広報活動に力を入れてきたが、来年度の本校入学希望者も募集定員を下回る結果となった。地元の中学生や保護者のニーズを踏まえた本校の魅力化を図り、情報を積極的に発信するなど、今後も引き続き生徒募集の取組を充実させていかなければならない。

本校の特徴である科学技術人材育成については、課題研究の対象をASクラスから全クラスに拡大し、全生徒の探究力の育成を図る。

昨年度に引き続き、学校改革と働き方改革を推進し、教職員の負担感軽減と教育の質の向上に取り組んできた。超過勤務時間は全体的に減少しているものの、依然として担任や体育系部活動顧問の超過勤務時間が長い傾向にあり、業務量の平滑化が課題である。今後も更なる業務の効率化と生徒の主体的な取組の推進の視点から改善と充実を図っていく。

(2) 学力向上

次年度も継続して、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて、ICTを有効活用しながら、思考力・判断力・表現力の育成を期して、生徒が活発に思考を廻らし議論を行うような探究型の授業づくりに努める。また、確かな学力の定着のために保護者と連携して家庭学習の充実も図っていく。

(3) キャリア教育の充実

主体的な進路選択・決定のために、ガイダンス機能やインターンシップ等の体験活動の機会を確保し、望ましい職業観、勤労観を育み、生徒一人一人が目的意識を持って日々の活動に取り組む態度を育成する。そのために教育活動の全領域においてキャリア教育の視点をもって取り組む。

(4) 生徒指導、人権教育の推進及びいじめ防止の徹底、健康安全教育の推進

基本的生活習慣及び規範意識の確立に向けて全職員で取組を進める。人権感覚を高め、いじめのない学校づくりを目指すとともに、SNSの使い方についても実態に応じた指導を行い、健全な心身の育成に努める。さらに交通安全についての意識をさらに高め、交通違反及び交通事故0を目指す。新型コロナウイルスをはじめとする感染症予防対策を継続して行う。

(5) 地域連携の推進

地域や地域の小中学校との密な連携をとおして、学校の発展と地域の発展に努める。そのため来年度から設置するコミュニティ・スクールにおいて、人材育成、地域活性化、ボランティア活動、地域防災などの観点から連携を深め、地域に信頼される学校としてさらなる教育の充実を図る。